

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**(仮称)伏見区堀詰町計画**

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.1</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>						<b>2.0</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	0.50	
<b>1.2 遮音</b>						<b>1.0</b>	-	<b>3.7</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	4.0	0.20	
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.7</b>
<b>2.1 室温制御</b>						<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
3 外皮性能						1.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.3 空調方式</b>						<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.7</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.5</b>
<b>3.1 昼光利用</b>						<b>4.2</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.50	
1 昼光率				●自然	A(全国版準用)	5.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				●自然	B(推奨内容)	3.0	0.40	3.0	0.20	
<b>3.2 グレア対策</b>						<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
2 昼光制御				●自然	B(推奨内容)	1.0	1.00	4.0	1.00	
<b>3.3 照度</b>						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>						<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						4.0	1.00	4.0	1.00	
<b>4.2 換気</b>						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				●自然	A(全国版準用)	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				●大切	D(独自基準)	3.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観				●とも	C(独自加点)	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画				●とも	D(独自基準)	1.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>						<b>3.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.31			<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>						<b>3.0</b>	0.48			
1 耐震性						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						<b>3.4</b>	0.33			
1 躯体材料の耐用年数				●大切	A(全国版準用)	5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						4.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						4.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性				3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
3	電気設備			3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり								
1	階高のゆとり					2.6	0.50	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり						2.0	0.40	
3.3 設備の更新性						3.0	0.50	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	1.00		-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	4.0	0.40	景観法第63条第2項の認定を受けている		4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)	2.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50	太陽光発電の採用		
3 設備システムの高効率化				4.8	0.40		-	4.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				#VALUE!			-	
集合住宅の評価				4.8			-	
4 効率的運用							-	
4.1 モニタリング							-	
4.2 運用管理体制							-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	3.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無							-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63		-	3.1
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	4.0	0.24	躯体と仕上げ材が容易に分別可能		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22		-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68		-	
1 消火剤				2.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.33	ノンフロン断熱材を採用		
3 冷媒				3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				4.1	0.33		-	4.1
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.3	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減				-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	自転車置場や駐車スペースを適切に確保		
3 交通負荷抑制				4.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音				3.0	1.00		-	
2 振動				-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				5.0	0.70	光害対策を行っている		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)	3.0	0.30		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる